

## 第 5 回委員会でいただいたご意見と対応方針について

### 1 第 5 回委員会でいただいた主なご意見

- 農林水産業は魅力的であらゆる方々が社会参画できる職業になっているべき。ビジョンに対し府民理解と参画が必要で、これから農林水産業をやりたい人のトリガーとなり、多くの人々がひと肌脱ぎたくなるようなビジョンにするべき。
- インパクトのあるキーワード、キャッチフレーズが重要。見せ方も重要で、絵を入れるなどしてはどうか。最後はデザイナーを入れて作ってもらう。
- 施策のターゲットごとにまとめるべき。皆が京都府の農林水産物が好きという姿が描ければよい。
- ワクワクするイメージがわくようなビジョンにすべき。
- P R チームが必要。
- やる気スイッチを入れるような参画型のビジョンであり、その見せ方が大切。

### 2 対応方針

#### (1) 構成について

府民にまず伝え、将来ビジョン、重点戦略部分を最初に記載することとしたい。

また、府民が見て、農林水産業、農山漁村地域の目指すべき姿を親しみやすく、かつ視覚的にわかりやすくするため、イラストを活用することとしたい。

対 応 前 (第5回委員会時)	対 応 案
	<b>(新) ビジョンの鳥瞰図 (イメージ図)</b>
農林水産ビジョンの基本的考え方	農林水産ビジョンの基本的考え方
農林水産業と農山漁村を取り巻く状況	<b>農林水産業・農山漁村の将来ビジョン</b>
<b>農林水産業・農山漁村の将来ビジョン</b>	<b>将来ビジョン実現に向けた重点戦略の展開</b>
<b>将来ビジョン実現に向けた重点戦略の展開</b>	農林水産業と農山漁村を取り巻く状況
農林水産ビジョンの推進体制	農林水産ビジョンの推進体制

#### (2) ビジョンの骨格について

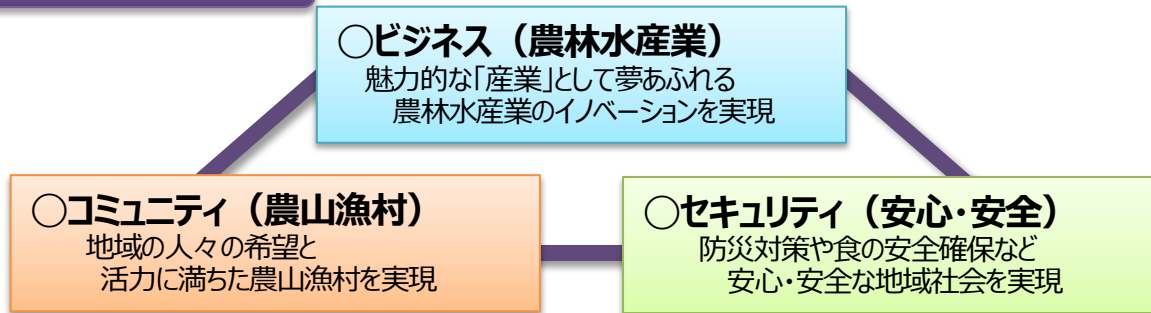
3つのコアコンセプトをつなぐ部分に、京都を訪れたいファン（関係人口）から、地域の人、移住希望者、ビジネス興しをしたい方々など、農山漁村に関わる全ての方々の情報が集い、支援する一元的な窓口の設置について記載することとしたい。（実現したい姿の前文にも反映）

⇒骨格は、次ページのとおり

(コアコンセプト及び重点資料の内容については、本文で議論)

## 未来志向で進める京都府農林水産ビジョン（仮称）の骨格

### 3つのコアコンセプト



### 推進体制

仕事や住居、ビジネスマッチングなどの相談、情報発信、伴走支援をワンストップで取り組む体制を構築

- 窓口機能
- ラボ（研究機関）機能
- 個々に応じた伴走支援
- メディア露出隊（PR チーム）

### 5つの重点戦略

#### 【戦略1】スマート&コラボで農林水産業の夢と未来を創る

- 中山間地域が多い等の特性を踏まえたカスタマイズで「スマート農林水産業」を実現
- 産地と実需との情報共有、小規模経営への伴走支援で農商工連携を面的に拡大

#### 【戦略2】「林業の再生」と「防災・減災」の両輪で健全な森林を目指す

- 新たな森林管理システム等を契機とした総合対策で持続的な林業経営、木材供給の拡大を実現
- 奥地等の森林保全や風倒木対応、府民への情報発信等で、山地災害対策を強化

#### 【戦略3】「京都らしさ」を生かしたバリューチェーンで世界を席巻する

- 消費者ニーズに即した差別化戦略や京の食文化のフル活用で新たな需要を開拓
- 機能性やおいしさなど“「高品質」の見える化”で信頼の基盤を構築

#### 【戦略4】人づくりの裾野を広げ多様な人材が育む産業・地域を実現する

- 法人のインキュベーションや働き方改革、企業参入、集落営農の強化等で担い手を確保
- 移住者や副業・兼業者等の外部人材と地域を橋渡しすることで“半農半X”等を拡大

#### 【戦略5】地域住民に寄り添い、強みを磨いて農山漁村（ふるさと）の絆を守る

- 多様な形で継続的に地域と関わる人々の創出と、仕事・住居等の一体的支援で移住を促進
- 地域資源を生かしたなりわいづくりや観光等で持続的な農山漁村コミュニティを形成

○相談・情報発信・伴走支援を一体的に取り組む体制について

**「場」の設定=プラットフォーム**

- 誰でも参加できる場の設定、  
⇒ビジネス会社を起こすようなところまでワンストップ窓口が“おせっかい”する体制  
例えば、中山間地向けのスマート農業をカスタマイズする会社ができるなど
- 教育との連携強化：市内と府の田舎をつなぐような取組も実施

